

大阪府立入試直前予想演習  
( 一般入学者選抜 )

国 語  
〔 B 問題 〕  
第 1 回

注 意

1 「開始」の合図があるまで開いてはいけません。

2 答えは、**解答用紙**に書きなさい。  
ただし、**問題五**は**原稿用紙**に書きなさい。

・ 答えとして記号を選ぶ問題は、右の【解答例】にならい、すべて**解答用紙の記号**を○で囲みなさい。また、答えを訂正するときは、もとの○をきれいに消しなさい。

・ 答えの字数が指定されている問題は、**句読点**や「 」などの符号も一字に数えなさい。

解答用紙の**採点者記入欄**には、何も書いてはいけません。

3 問題は、中の用紙のA面に一・二、B面に三～五があります。

4 「開始」の合図で、まず、**解答用紙**と**原稿用紙**に受験番号を書きなさい。

5 「終了」の合図で、すぐ鉛筆を置きなさい。

【解答例】

ア

イ

ウ

エ

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。  
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。  
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

(菅原健介『羞恥心はどこへ消えた?』による)

1 本文中のA～Dの——を付けた語のうち、一つだけ他と品詞の異なるものがある。その記号を○で囲みなさい。

2 「コミュニケーション能力」<sup>①</sup>とあるが、チンパンジーのコミュニケーション能力について、本文中で筆者が述べている内容を次のようにまとめた。  
a に入る内容を、本文中のことばを使って二十字以上、三十字以内で書きなさい。また、b に入れるのに最も適しているひとつづきのことばを、本文中から二十四字で抜き出し、初めの五字を書きなさい。

チンパンジーは手話などを用いればもつと多様にコミュニケーションできることから、人のように話せないのは、a ができないからであり、b は不可能であるといえる。

3 本文中には次の一文が入る。入る場所として最も適しているものを本文中の [ア] [イ] から一つ選び、記号を○で囲みなさい。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。  
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

4 次のうち、本文中の [②] に入れるのに最も適していることばはどれか。一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 試行錯誤をすること自体に大きな意味があるため、同じ行動パターンを獲得する必要はない
- イ 学習効果を他の個体にも共有することは、どのような試行錯誤を経たとしても不可能である
- ウ 異なる個体同士で同じ行動パターンを獲得するためには、試行錯誤を繰り返す必要がある
- エ 個体から別な個体にそのコツが伝授されれば、試行錯誤を繰り返す必要はない

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ある在家に、大般若経誦ませける中に、愚僧ありて、経を逆さまに持ちたるを、奉行しける俗、「あの御坊の、持ち給へる経の、逆さまに候ふは」と言へば、能く持ちたる僧、取り直して逆さまに持ちてけり。さて、逆さまに持ちたる僧は、我はよく持ちたる気色にて、そばの僧ををこがましく思ひて、「さ見候ひつる」と言ひけり。

また、「大」文字を知らで、「又ぶりの様なる文字は何」と問へる僧ありけり。また「大」と打ち上げて、「般若」を見知らで「船か」と言ひける。

かかる僧のありけるこそ、あまりに不思議に侍れ。末代はいよいよありぬべし。

(注) 奉行しける俗 儀式を取り仕切っていた俗人。

1 能く持ちたる僧、取り直して逆さまに持ちてけりとあるが、この僧がした行動について、本文中で述べられている内容を次のようにまとめた。[a] に入れるのに最も適しているひとつづきのことばを、本文中から六字で抜き出さない。また、[b] に入る内容を本文中から読み取って、現代のことばで十五字以上、二十字以内で書きなさい。

大般若経を誦んでいるときに、[a] の指摘は自分に向けられているものと思い、[b] 。

2 をこがましくを現代かなづかいになおして、すべてひらがなで書きなさい。

3 あまりに不思議に侍れとあるが、次のうち、筆者の感想として、本文中で述べられていることがらと内容の合うものはどれか。最も適しているものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 逆さまに経を持ち、流暢にそれを誦みあげる僧を見たことは、とても不思議な経験だ。
- イ 僧は経を誦めて当然なはずなのに、文字を知らない者たちがいるのはあまりに非常識なことである。
- ウ 知らないことを素直に尋ね、貪欲に知識を増やしていこうとする僧は考えられないほど立派だ。
- エ 人に向かつての批判も自分のこととして受け止め、己の行動を正す姿勢はすばらしい。

## 三 次の問いに答えなさい。

- 1 次の(1)～(4)の文中の傍線を付けた漢字の読み方を書きなさい。また、(5)～(8)の文中の傍線を付けたカタカナを漢字になおし、解答欄の枠内に書きなさい。ただし、漢字は楷書で、大きくていねいに書くこと。
- (1) 発表のために準備をする。  
 (2) 僅差で試合に敗れる。  
 (3) 迷わず潔い決断をする。  
 (4) 心の赴くままに道を行く。  
 (5) 自分の名前ををツげる。  
 (6) 布を赤くソめる。  
 (7) テツボウの練習をする。  
 (8) 消防署にキンムする。

2 次のうち、返り点にしたがって読むと「必ず高陽に居りて以て敵を待つ。」の読み方になる漢文はどれか。一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 必<sup>ス</sup> 居<sup>リテ</sup> 高 陽<sup>ニ</sup> 以<sup>テ</sup> 待<sup>ツ</sup> 敵<sup>ヲ</sup>。  
 イ 必<sup>ス</sup> 居<sup>リテ</sup> 高 陽<sup>ニ</sup> 以<sup>テ</sup> 待<sup>ツ</sup> 敵<sup>ヲ</sup>。  
 ウ 必<sup>ス</sup> 居<sup>リテ</sup> 高 陽<sup>ニ</sup> 以<sup>テ</sup> 待<sup>ツ</sup> 敵<sup>ヲ</sup>。  
 エ 必<sup>ス</sup> 居<sup>リテ</sup> 高 陽<sup>ニ</sup> 以<sup>テ</sup> 待<sup>ツ</sup> 敵<sup>ヲ</sup>。

## 四 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。  
 実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。  
 実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。  
 実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

〔青木玉〕『手もちの時間』による

〔注〕 祖父 小説家の幸田露伴。東京都谷中天王寺にあった塔をモデルに『五重塔』を書いた。

母 小説家、随筆家の幸田文。  
 奥津城 墓。また、神道では神を祭る場所。

1 谷中の五重塔が炎上する騒ぎとあるが、次のうち、この騒ぎをみた母の様子について、本文中で述べられていることがらと内容の合うものはどれか。最も適しているものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 一面が辺りを照らすほど大きい炎に包まれる中で、自分が建てその日まで大切に守ってきた五重塔が簡単に崩れ落ちる様を嘆いていた。
  - イ 大規模な火事の知らせを聞いて急いで家を飛び出したが、炎のあまりの恐ろしさに驚き、その場に居続けることができず無力さを悔やんでいた。
  - ウ 谷中の五重塔が火事で崩れ落ちていく中、鮮やかに色を変え美しく燃え上がる炎により、お墓に納められた故人たちの悲しみすら感じていた。
  - エ 五重塔は一瞬にして色鮮やかに燃え上がってしまった、母が現場にいた時には塔の姿は跡形もなかったため、その場で大きな喪失感を抱いた。
- 2 次のうち、本文中の〔2〕に入れるのに最も適していることばはどれか。一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア しばらく
- イ いきなり
- ウ やんわり
- エ ふと

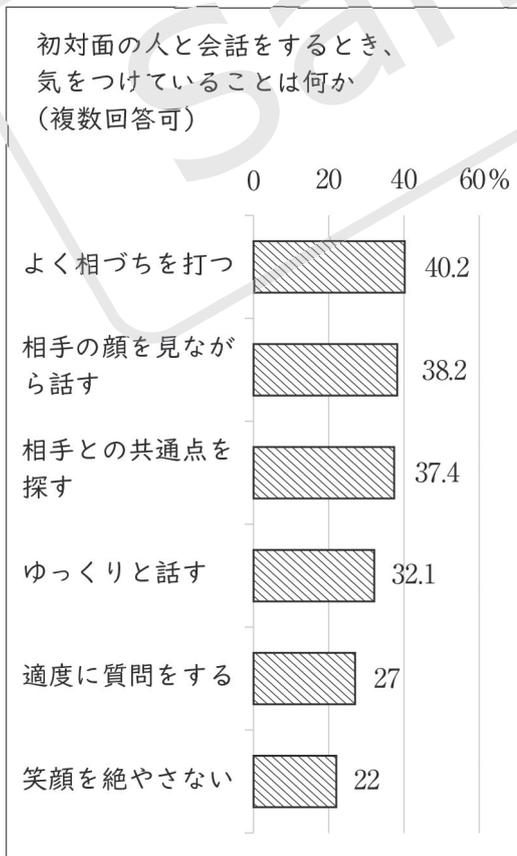
3 私はこの試みに、私の思いも預けようと思うとあるが、筆者がこのように気持ちになった理由として、本文中で述べられている内容を次のよう

にまとめた。〔a〕、〔b〕に入れるのに最も適しているひとつづきのことばを、それぞれ本文中から抜き出さない。ただし、〔a〕は九字、〔b〕は五字で抜き出すこと。また、〔c〕に入る内容を、本文中のことばを使って二十字以上、三十字以内で書きなさい。

筆者は、『五重塔』のオペラ化に対する〔a〕、谷中に住む人々の塔を〔b〕の熱さや、塔の存在は仰ぐ人にとつて奥津城のよう〔c〕のものであると感じたから。

五 次の【資料】は、ある中学校の生徒を対象におこなった「初対面の人と会話をするとき、気をつけていることは何か」というアンケート調査の結果をまとめたものです。【資料】の内容にもふれながら、「初対面の人と会話をするとき、気をつけていることは何か」という質問に対するあなたの考えを別の原稿用紙に書きなさい。ただし、あとの条件1・2にしたがって書くこと。

【資料】



条件1

「初対面の人と会話をするとき、気をつけていることは何か」という質問に対するあなたの考えを示したうえで、なぜそのように考えたのかを説明すること。

条件2

二百六十字以内で書くこと。